新幹線開業の光と影

～金沢市「北陸新幹線開業による影響検証会議報告書」にみる実状～～

石川県金沢市は、北陸新幹線金沢開業３周年を迎えるにあたり、「北陸新幹線開業による影響検証会議」を開催、平成29年５月から11月にかけて議論を行い、「北陸新幹線開業による影響検証会議報告書」（以下「報告書」）にまとめ発表した。今回はこの「報告書」の内容を紹介するとともに、新幹線開業についての留意事項について考察する。

北陸新幹線金沢駅　鼓門

１．交流人口が大幅増大

「報告書」は北陸新幹線の開業によって、

・首都圏と北陸の間の鉄道利用が３倍に達する

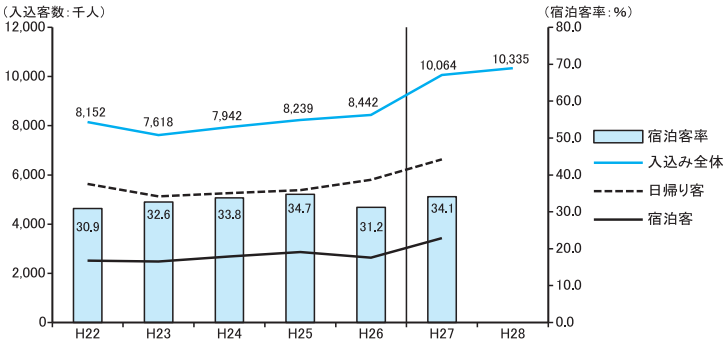
・金沢地域への入込み客数が１千万人の大台を超える

と、交流人口の大幅増を挙げている。（４頁）

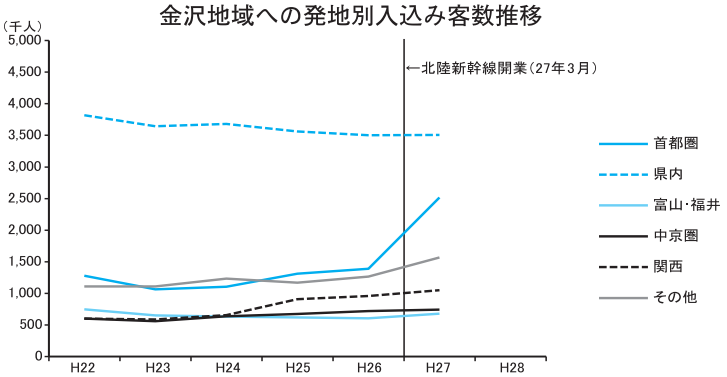
新幹線開業年の平成27年の発地別入込み客数は、首都圏からは対前年比80.9％増。入込み客数の大幅増はこの首都圏からの入込みが寄与している（右下グラフ）。グラフでは判りづらいが、中京圏は同＋2.9％、関西圏は同＋10.0％、その他地域同＋23.6％となっている。

入込み客の日帰り・宿泊内訳（右上グラフ）では、「報告書」は「懸念されていた日帰り客の増加は見られなかった」（４頁）としている。宿泊客率は開業前年の26年にいったん低下（31.2％）しており、27年は回復したがピークである前々年の34.7％をやや下回る水準。「報告書」で詳しい分析は示されておらず、詳細は不明。28年以降の推移をみていく必要がある。

金沢地域への入込み客数と宿泊者数・率推移



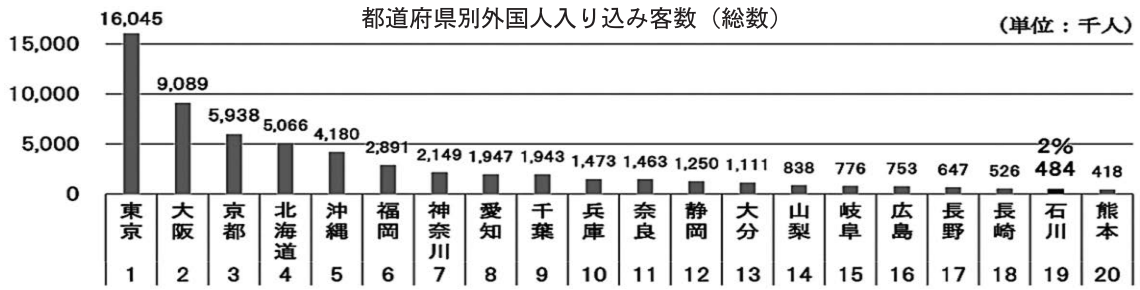
金沢地域への発地別入込み客数推移



（「報告書」データから当課でグラフ作成）

２．インバウンドはまだまだの水準と分析

インバウンドについて「報告書」では「『金沢市観光戦略プラン2016』では、2020年の外国人宿泊客の目標を40万人としていたが平成28年の段階で39万６千人に達している」（７頁）とするものの、「平成28年の訪日外国人2,400万人のうち、石川県への訪問は2.0％にとどまっている」（資料－16頁）として引き続き底上げが望まれるとの認識である。



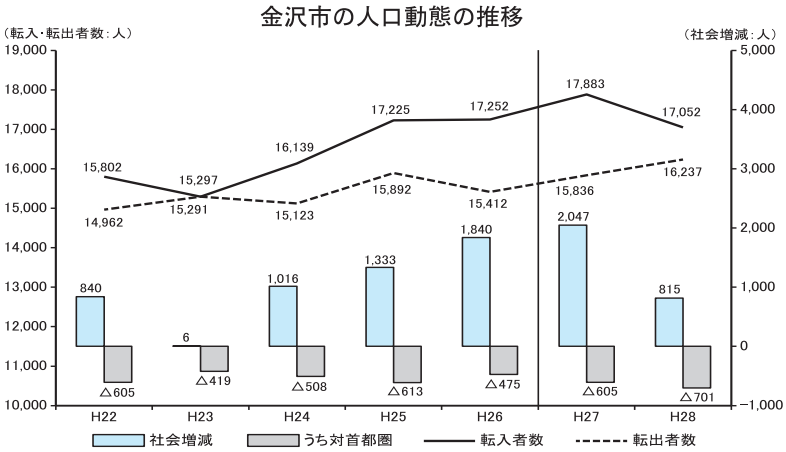
（「報告書」資料－16頁）

3．予想された「脅威」は

事業所の支社・支店開設状況（H25～28.7）は、「開業前年から、金沢市内に68企業が支店・営業所を開設」、「開業後に拠点を廃止したのは1企業にとどまっている」。

人口動態では、平成22年から28年で転入者が転出者を上回る社会増が続いている。新幹線開通年が最大の2,047人で、28年はプラス幅が縮小。ただ、対首都圏では社会減がこの間続き、しかも近年増加傾向にある。

生活面でのマイナス効果として、「馴染みの店が予約が必要になった」「駐車料金の高騰」「来訪者が自分達の生活圏に入り込み、混雑、ごみのポイ捨て、民家覗きなど発生」など回答された。また「民泊対応でまちづくり協定を締結し先手を打ったのが奏功」というのもあった。



（「報告書」データから当課でグラフ作成）

4．リニア中央新幹線開業に向けて

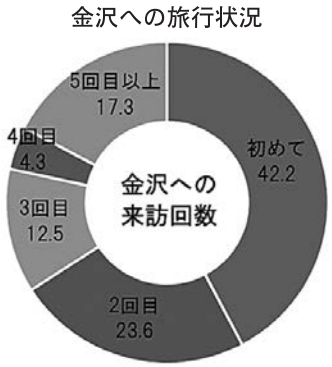
「独り勝ち」といわれている金沢市の例では参考にならない、という向きもあるかもしれないが、「報告書」をもとに、着眼のポイントを挙げてみる。

⑴ 飯田の魅力アップが当地の賑わいになる

「報告書」は、新幹線開業による賑わいを「新幹線は、あくまで移動手段の一つであり、まちの個性である歴史・伝統・文化を大切に守り、磨き高めてきた、これまでのまちづくりが、国内外の多くの方から評価されている」と述べている。多くの人がリニアで当地を訪れてくれるために当地は何を守り、磨くか。当地域の水引関連業界の方の言葉「金沢の水引業者は当地と比べ小規模・零細だが、市場に『水引は金沢』というイメージを上手につくっている」、当地域資源の磨き上げと情報発信の重要さの指摘と受け止める。

⑵ 新規来訪者への対応を抜かりなく

金沢ほどの街でも、新幹線開業を機に同市を始めて訪れた者は4割を超えた。「飯田にそれ程人が来る訳がない」などと言っていると、対応が行き届かず、当地の評判を落とすことになるかも知れない。当地域がどのような「おもてなし」をすべきか考え、準備していくことが必要だろう。



（「報告書」資料－16頁）

⑶ 開通後予想されるマイナス面は先手を取って、住民の力で

リニア開通後に予想される生活上の問題は、地域住民で考えて対応を決めていくことも必要になる。

（飯田信用金庫 地域サポート部 リニア対策課　加藤　修平）